
資料

検討経過

名古屋市総合排水計画は、庁内会議である「名古屋市総合排水計画策定協議会」及び、学識経験者により構成された「名古屋市総合排水計画有識者懇談会」を設置し、検討を進めました。

年 月 日	事 項
平成28年11月10日	第1回 名古屋市総合排水計画策定協議会準備会
平成29年 3月27日	第2回 名古屋市総合排水計画策定協議会準備会
10月20日	第3回 名古屋市総合排水計画策定協議会準備会
11月7日	平成29年度 第1回 名古屋市総合排水計画策定協議会
12月26日	平成29年度 第1回 名古屋市総合排水計画有識者懇談会
平成30年3月27日	平成29年度 第1回 名古屋市総合排水計画策定協議会幹事会
6月11日	平成30年度 第1回 名古屋市総合排水計画策定協議会幹事会
6月15日 ～6月25日	市政アンケート(ネット・モニターアンケート)の実施 (詳細な結果はP92～P103)
8月8日	平成30年度 第1回名古屋市総合排水計画有識者懇談会
8月28日	平成30年度 第1回名古屋市総合排水計画策定協議会
10月15日	平成30年度 第1回名古屋市総合排水計画策定協議会幹事会
10月25日	平成30年度 第2回名古屋市総合排水計画有識者懇談会
12月18日	名古屋市会経済水道委員会(所管事務調査)
12月21日	名古屋市会土木交通委員会(所管事務調査)
平成31年1月28日 ～2月28日	「名古屋市総合排水計画(案)」のパブリックコメント実施
2月 3日	名古屋市総合排水計画PRシンポジウム「大雨と名古屋」開催
3月20日	平成30年度 第2回名古屋市総合排水計画策定協議会

有識者懇談会名簿(五十音順、敬称略)

氏 名	役職等	専門分野
からたに ゆ か 柄谷 友香	名城大学都市情報学部 教授	防災計画、防災教育
と だ ゆう じ 戸田 祐嗣	名古屋大学大学院工学研究科 教授	河川工学、水理学
とみなが あきひろ 富永 晃宏	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授	河川工学、水理学
ひでしま えいぞう 秀島 栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授	土木計画、都市計画、政策科学
まつ お なお き ○松尾 直規	中部大学工学部 教授	河川工学、環境水理学

○ 座長

■ 名古屋市総合排水計画PRシンポジウム「大雨と名古屋」

本計画のPR及びパブリックコメントの周知のため、シンポジウム「大雨と名古屋」を開催しました。当日は113名の方にご参加いただき、本計画の概要を説明するとともに、気象キャスター寺尾直樹氏、一般社団法人中部経済連合会社会基盤部長上之郷久展氏、名古屋大学大学院教授戸田祐嗣氏にご講演いただきました。

大雨と名古屋
名古屋市総合排水計画PRシンポジウム
主催/名古屋市
共催/あいち・なごや国際化共創センター

2019年2月3日(日)
13:00～15:00
[開場12:30]
名古屋大学減災館
1F減災ホール
当日先着100名

本日のプログラム

- 名古屋市総合排水計画（案）の概要説明
- 講演
 - 1. 『近年の気象状況と身を守る方法』
気象キャスター 寺尾 直樹 氏
 - 2. 『災害に対する企業の取組』
一般社団法人 中部経済連合会
 - 3. 『巨大水害に対応するために』
名古屋大学大学院教授 戸田 祐嗣 氏

プログラム構成



当日の様子

昭和40年代以降の主な風水害

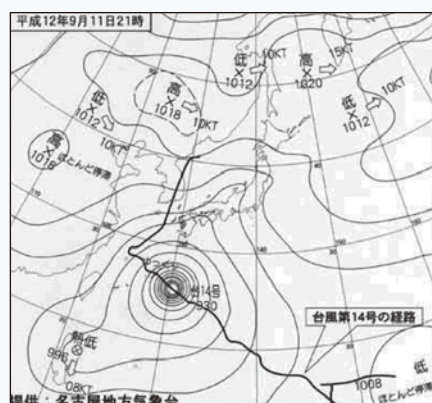
年月日 (名称)	現象	名古屋地方気象台における気象観測記録					被害の概要 (名古屋市内)
		最大 風速 (m/s)	最大 瞬間 風速 (m/s)	総 降水量 (mm)	最大 1時間 降水量 (mm)	最大 10分間 降水量 (mm)	
昭和 45. 7. 30	大雨	7.7 ENE	11.3 E	123.5	63.0	16.5	死者 3、負傷者 4 床上浸水 4,452、床下浸水 35,068 全壊 2、半壊 6
昭和 46. 8. 30 ～ 31 (台風第 23号)	大雨	10.0 E (30日)	19.5 ESE (31日)	321.5	34.5 (30日)	16.5 (30日)	床上浸水 2,599、床下浸水 25,813 全壊 3、半壊 9
昭和 46. 9. 26 (台風第 29号)	大雨	11.2 NNW	16.8 NNW	162.0	92.0	20.5	床上浸水 3,291、床下浸水 60,842 半壊 3
昭和 47. 9. 16 ～ 17 (台風第 20号)	大雨 強風	26.3 SE (16日)	40.4 SE (16日)	71.0	10.5 (16日)	4.5 (16日)	死者 1、負傷者 9 床上浸水 86、床下浸水 480 全壊 8、半壊 80
昭和 49. 7. 24 ～ 25	大雨	9.0 SE (25日)	14.1 SE (25日)	130.0	26.5 (25日)	8.0 (25日)	床上浸水 2,884、床下浸水 40,463 半壊 1
昭和 51. 9. 8 ～ 14 (台風第 17号)	大雨 強風	10.2 SE (13日)	18.1 SE (13日)	422.5	44.0 (12日)	10.5 (12日)	床上浸水 3,610、床下浸水 62,959 半壊 217
昭和 54. 9. 24 ～ 25	大雨	6.0 SSE (24日)	9.5 SSE (24日)	105.5	56.0 (24日)	13.5 (24日)	床上浸水 1,613、床下浸水 30,290 道路損壊 28、堤防損壊 5 土砂流出 34
昭和 55. 8. 26 ～ 27	大雨	6.9 SSE (26日)	15.3 WNW (27日)	142.5	62.0 (26日)	21.0 (27日)	床上浸水 413、床下浸水 13,028 半壊 1
昭和 57. 8. 8	大雨	7.2 NNE	12.3 NNE	52.0	33.0	7.0	床上浸水 398、床下浸水 14,131
昭和 58. 9. 28 (台風第 10号)	大雨	9.5 N	17.2 S	166.0	72.5	19.5	死者 4 床上浸水 672、床下浸水 15,291 道路損壊 22、堤防損壊 11
昭和 62. 9. 25	大雨	8.8 NW	14.4 NNW	118.5	75.0	17.5	床上浸水 127、床下浸水 2,380
平成 3. 9. 18 ～ 19 (台風第 18号)	大雨	7.7 WNW (19日)	14.3 WNW (19日)	242.0	62.0 (19日)	14.5 (19日)	床上浸水 1,955、床下浸水 6,731 全壊 1 道路損壊 18、堤防損壊 29
平成 6. 9. 15 ～ 18	大雨	7.4 SE (17日)	16.7 SE (17日)	197.0	53.0 (17日)	15.0 (17日)	床上浸水 105、床下浸水 3,462 道路損壊 9
平成 10. 9. 21 ～ 22 (台風第 7,8号)	大雨 強風	21.5 SSE (22日)	42.6 SSE (22日)	67.5	10.5 (21日)	4.5 (21日)	死者 2、負傷者 56 半壊 4 床上浸水 1
平成 12. 9. 11 ～ 12 (台風第 14号・前線)	大雨	6.9 N (12日)	12.2 S (11日)	566.5	97.0 (11日)	26.0 (11日)	死者 4、負傷者 47 床上浸水 9,818、床下浸水 21,852 全壊 4、半壊 98
平成 16. 9. 5 ～ 6	大雨	6.0 S (6日)	12.3 SSE (6日)	137.0	52.5 (6日)	18.5 (6日)	床上浸水 250、床下浸水 1,584
平成 20. 8. 28 ～ 29	大雨	7.0 NNW (28日)	10.7 NNW (28日)	202.0	84.0 (29日)	19.5 (29日)	半壊 1 床上浸水 1,175、床下浸水 9,929
平成 23. 9. 19 ～ 21	大雨	12.2 N	22.0 N	274.0	45.5	19.5	死者 3、負傷者 7 一部破損 1、床上浸水 61、床下浸水 317

名古屋地域防災計画 附属資料編より抜粋

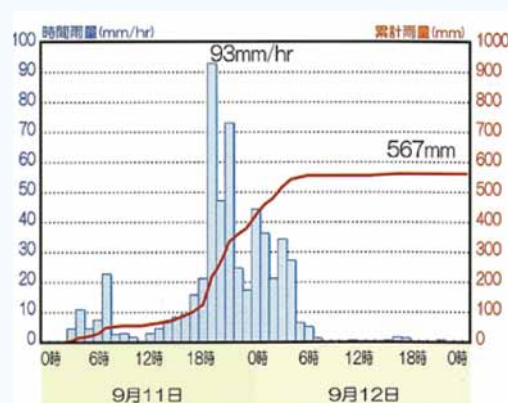
平成12年東海豪雨

平成12年9月11日から12日かけて、日本付近に停滞していた秋雨前線は、台風14号からの暖かく湿った気流が流れ込んだことにより活動が活発となり、東海地方は愛知県を中心に記録的な大雨となりました。この豪雨は「東海豪雨」と呼ばれ、名古屋市の年間平均降雨量の約3分の1が1日で降るといふ未曾有の豪雨となりました。東海豪雨では、広範囲にわたる内水氾濫だけではなく、新川が破堤した他、庄内川や天白川でも越水が生じるなど、外水氾濫が発生したのが特徴であり、市域の約4割の地域が浸水し甚大な被害が発生しました。

雨量(名古屋地方気象台観測値)		浸水被害(名古屋市内)	
60分最大雨量	総雨量	床上浸水	床下浸水
97.0 mm	566.5mm	9,818棟	21,852棟



地上天気図



雨量(名古屋地方気象台)



新川の堤防決壊(西区)

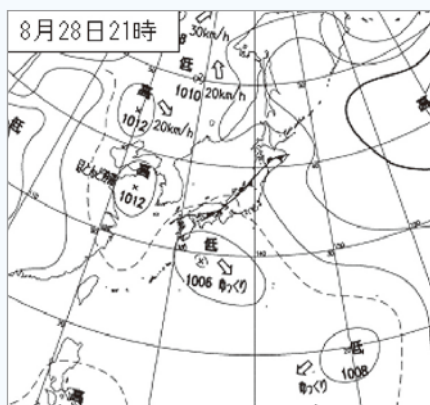


被害状況(天白区野並付近)

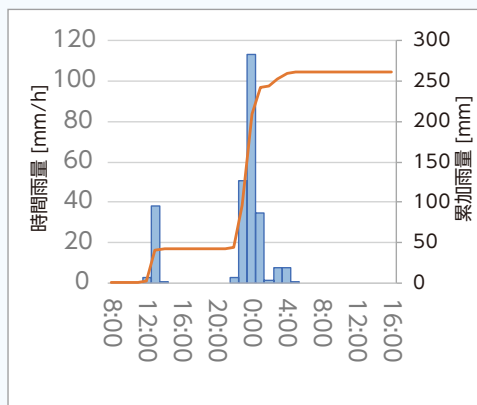
平成20年8月末豪雨

平成20年8月28日から29日かけて、日本付近に停滞していた前線は、南から暖かく湿った空気が流れ込んだことにより活動が活発となり、非常に激しい雨をもたらしました。この豪雨は「平成20年8月末豪雨」と呼ばれ、岡崎市で1時間146.5mmの降雨を記録した他、名古屋市内でも市域北部、西部を中心に1時間100mmを超える降雨を観測しました。平成20年8月末豪雨では、河川の破堤・越水といったいわゆる外水氾濫は発生しなかったものの、内水氾濫により甚大な被害が発生しました。

60分最大雨量		浸水被害(名古屋市内)	
名古屋地方气象台	北土木事務所	床上浸水	床下浸水
83.5mm	113.0mm	1,175棟	9,929棟



地上天気図



雨量(北土木事務所)



被害状況(西区円頓寺商店街)

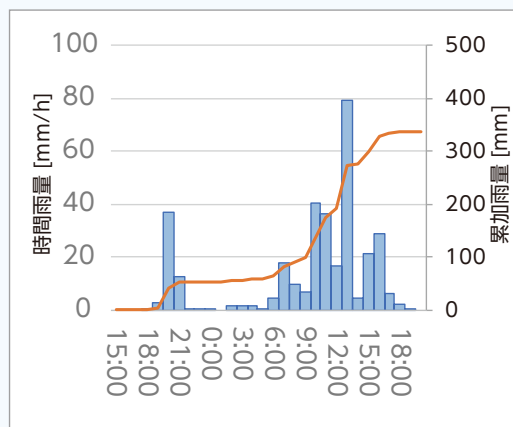
平成23年台風15号

平成23年9月19日から21日かけて、日本付近に停滞していた前線は、台風からの暖かく湿った空気が流れ込んだことにより活動が活発となり、断続的に強い雨を降らせました。特に20日は、名古屋市内で激しい降雨が降るなど、尾張東部から中濃・東濃にかけて大雨となり、庄内川やその支川である八田川、野添川、長戸川などから越水が発生し、守山区志段味地区を中心に、甚大な被害が発生しました。

60分最大雨量		浸水被害(名古屋市内)	
名古屋地方气象台	東谷山(守山区)	床上浸水	床下浸水
45.5mm	79.5mm	61棟	317棟



地上天気図



雨量(東谷山)



被害状況(守山区吉根)



八田川からの越水

河川激甚災害対策特別緊急事業(庄内川・新川・天白川)

平成12年の東海豪雨により、洪水で甚大な被害が発生した国管理の庄内川、県管理の新川、天白川について、平成12年度から概ね5ヵ年で河川激甚災害対策特別緊急事業により緊急的な河川改修を国・愛知県が実施しました。

<事業目的>

- ▶ 庄内川・新川を一体的に捉え、総合的な治水対策を実施
- ▶ 東海豪雨と同様な降雨に対して、洪水を安全に流下させ、内水被害を最小限にとどめる
- ▶ 堤防強化・河道改修等のハード面の施策に加え、遊水地による貯留効果、防災システム整備によるソフト対策を実施

東海豪雨を受けての対策			
河 川 名	庄内川	新 川	天白川
事業目標	再度、同様な降雨(東海豪雨)に見舞われても、洪水を安全に流下させるとともに、内水浸水被害を最小限にとどめる		
事業期間	H12年度～H16年度		
事業区間	L=16.0km (明德橋～洗堰)	L=21.8km (河口～洗堰)	L=7.6km (千鳥橋上流～野中橋)
事業内容	築堤・堤防強化 河道・河床掘削 橋梁改築・補強 洗堰改築 小田井遊水地改築 防災情報システム整備 水防拠点整備	築堤・堤防強化 河道・河床掘削 橋梁改築・補強 内水河川ポンプ増強 遊水地整備(55万㎡) 防災情報システム整備	築堤・堤防強化 河道・河床掘削 橋梁改築・補強 防災情報システム整備



①庄内川 河床掘削(大当郎橋付近)

②庄内川・新川 洗堰改築、遊水地整備



③天白川 河道拡幅・河床浚渫(星園橋付近)

出典:

①、②

庄内川・新川河川激甚災害対策特別緊急事業
完成パンフレット(国土交通省中部地方整備局 愛知県)

③

天白川河川激甚災害対策特別緊急事業の概要(愛知県)

方針1 地域防災力の向上

指 標	現状 (2018年度末)	目標 (2023年度末)
水防法改正等に伴うハザードマップの見直し・作成	検討	作成・配布
名古屋市地域防災計画(2018.6月)に位置づけた要配慮者利用施設の避難確保計画提出割合	50%	100%
消防署により地域ごとの実情に応じた防災対策を支援した自主防災組織の割合	—	100%
地区防災カルテを活用した防災活動に取り組んでいる学区の割合	11%	100%
中小企業の事業継続計画策定支援に係るセミナー及び専門家派遣を活用した中小企業数	578社/期間	700社/期間

方針2 災害対応力の向上

指 標	現状 (2018年度末)	目標 (2023年度末)
想定し得る最大規模の高潮・洪水を想定した避難行動指針の策定	未策定	策定
局地的豪雨を踏まえた雨量計の配置見直し	—	見直し
河川台帳調製済みの河川数	34河川	完了35河川 着手1河川

方針3 災害に強い都市基盤の整備

指 標	現状 (2018年度末)	目標 (2023年度末)
地下鉄施設の浸水対策整備率	89%	100%
緊急雨水整備事業の整備率	92%	96%
堀川の整備率(63mm/h降雨対応率)	40%	48%
平成30年7月豪雨を踏まえた堤防強化等の緊急対策を実施する河川数	—	4河川
整備・更新等を実施したポンプ設備数	106箇所	239箇所
排水路の改良延長	49.2km	64.2km
農業用水路の改良延長	5,734m	11,234m
土地改良区の排水機場の改修工事実施箇所数	5箇所	6箇所
みずプラン32における下水管の改築及び耐震化延長	135km	225km(2020)

方針4 防災意識の向上(継続的に実施するもの)

指 標	年間目標
港防災センターの来館者数	65,000人
外国人防災啓発事業の実施回数	5回
市立小中学校における避難訓練や引き取り訓練などの防災教育の実施	全小中学校
管理職にある教員を対象とした防災教育講習会の実施	全学校から参加
市民の防災意識を高める講座・事業の実施	全区
総合水防訓練の実施	全区
あいち・なごや強靱化共創センターと連携した研修の実施回数	26回
区本部運営等に係る訓練・研修の実施	全区

※現状欄には2018年度末時点での見込みを記載

※「/期間」と記載されているものは、現状欄には2014年度～2018年度の見込み事業量を、目標欄には2019年度～2023年度の見込み事業量を記載

▶ 庄内川水系(大臣管理区間)

庄内川は、岐阜県恵那市を源流とし、本市の守山区、北区、西区、中村区、中川区及び港区を流下する一級河川で、幹線流路延長96km、流域面積1,010km²と、本市を流れる最大の河川です。庄内川及び支川の矢田川(宮前橋まで)が国土交通大臣管理区間に指定されています。

平成12年東海豪雨では、国道1号(一色大橋)の下流右岸で堤防から越水したほか、支川の新川で破堤するなど、流域で甚大な被害が発生しました。これらの被害を受けて、庄内川

では「河川激甚災害対策特別緊急事業」を平成12年度から平成16年度までの5年間で実施し、河道掘削、築堤・堤防強化、橋梁の改築、新川洗堰の改築、小田井遊水地の改築などを行いました。その後も、平成23年台風15号の



【本市の対応】

河川(大臣管理区間): 国に対し、事業の着実な促進・推進を要望

下水道等: 下水管等、雨水ポンプ施設(能力増強)

際には、守山区で庄内川から越水するなど被害が発生していることから、引き続き、平成12年東海豪雨と同規模の洪水が発生しても、破堤などによる甚大な被害を防止することを目標として、整備が進められています。

流域の下水道は、下流域の大部分が雨水ポンプにより排水を行っています。庄内川の水位が危険な状態に達した場合は雨水ポンプの運転を停止する排水調整を行うこととなっています。平成12年東海豪雨や平成20年8月末豪雨、平成23年台風15号の際に内水氾濫により甚大な被害が発生した地域においては、緊急雨水整備事業等により雨水ポンプの増強や貯留施設整備、管きょ増強などを実施し、平成31年4月時点で、一部地域を除き事業を完了しています。



▶ 庄内川水系庄内川上流圏域

庄内川上流圏域のうち、本市を流れる河川は庄内川の支川である矢田川（宮前橋上流）・香流川・天神川・八田川、（以上、愛知県管理）、守山川・隅除川・長戸川・野添川（以上、名古屋市管理）があります。

平成23年台風15号では、庄内川の水位上昇に伴い支川の八田川、長戸川、野添川で堤防から越水するなど、浸水被害が発生しました。長戸川、野添川では庄内川の整備と合わせて国による緊急的な整備が実施されました。また、八田川では愛知県により平成29年度から整備が進められています。

この流域の大部分は丘陵地帯であり、自然排水をしています。平成23年台風15号では、守山区志段味地区において、内水氾濫による浸水被害が発生したことから、志段味地区雨水浸水対策により、排水路や管きょ増強、貯留施設整備、雨水ポンプの増強などを実施しました。



【本市の対応】

河川（愛知県管理）：県に対し、事業の着実な促進・推進を要望

優先整備河川：（一）野添川（護岸整備、河道掘削）

（一）守山川（流域貯留施設整備）

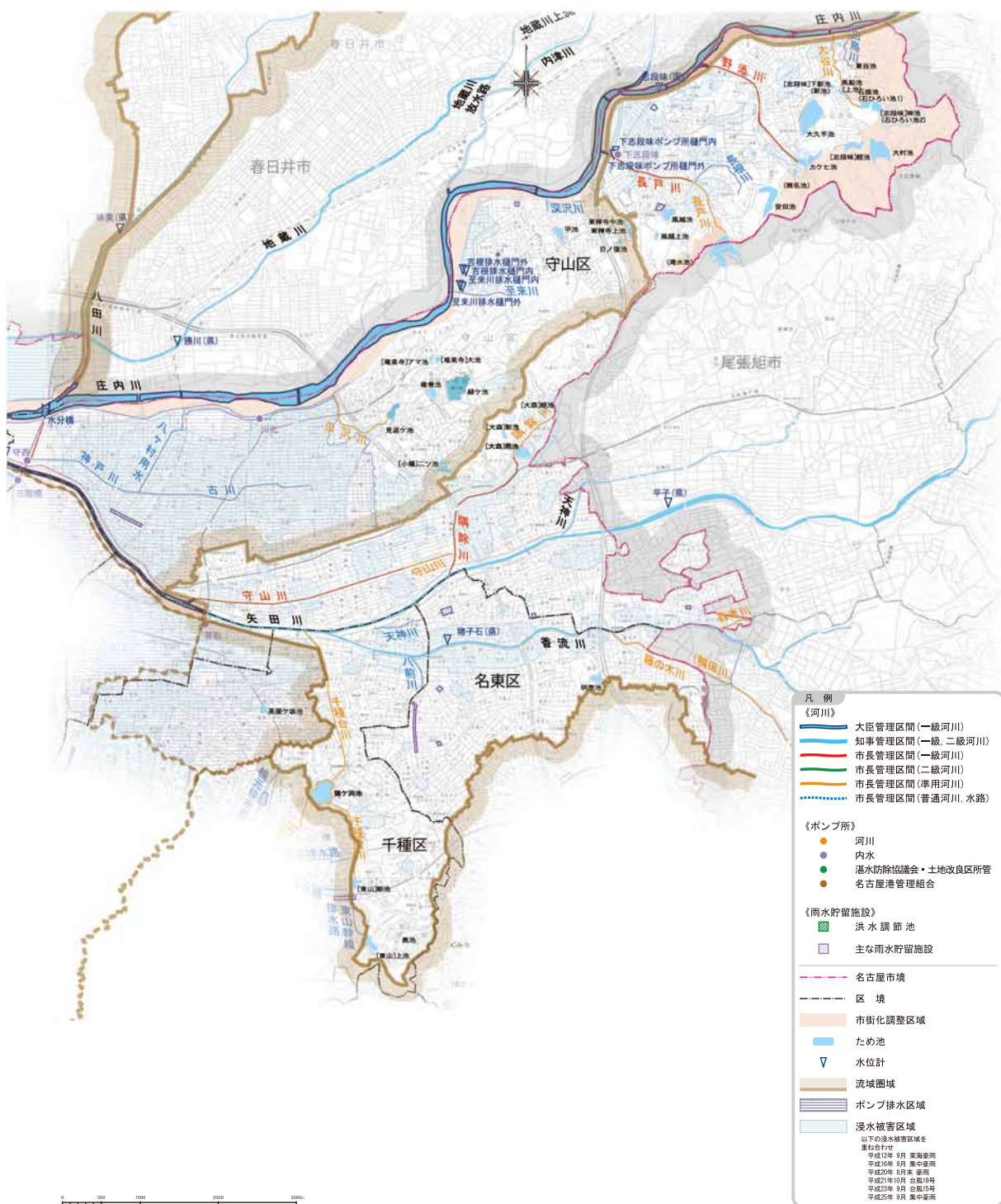
（一）隅除川（流域貯留施設整備）

（準）白沢川（流域貯留施設整備）

その他の河川：（準）大矢川、（準）長戸川、（準）隅除川、（準）藤の木川
（更新等に合わせて整備）

下水道等：下水管等、雨水ポンプ施設（能力増強）

流域対策：緑地、ため池の保全



▶ 庄内川水系新川圏域

新川は、庄内川洗堰を上流端として、名古屋市、北名古屋市、清須市、大治町を流下し、伊勢湾に注ぐ延長約22km、流域面積249.4km²の一級河川で、新川と支川の水場川、合瀬川、大山川、新地藏川を愛知県が管理しています。

平成12年東海豪雨では、新川圏域の洪水流出と洗堰を越流して庄内川から流入した洪水が重なったことにより、本市西区内の新川左岸堤防が約100mにわたって破堤し、甚大な被害が発生しました。これらの被害を受けて、「河川激甚災害対策特別緊急事業」を平成12年度から平成16年度までの5年間で実施し、河道掘削、築堤・堤防強化、橋梁の改築、新川洗堰の改築などが行われました。現在も引き続き、港区、中川区において整備が



【本市の対応】

河川(愛知県管理): 県に対し、事業の着実な
促進・推進を要望

優先整備河川: (準)生棚川(河道整備)
(準)境川(河道整備)
(準)久田良木川(ポンプ増強)

下水道等: 下水管等、雨水ポンプ施設
(能力増強)

流域対策: 流域水害対策計画に基づき、
流域対策を推進

進められています。

流域の下水道は、全域が雨水ポンプにより排水を行っています。庄内川と同様に、新川の水位が危険な状態に達した場合は雨水ポンプの運転を停止する排水調整を行うこととなっています。平成12年東海豪雨で著しい被害が集中した地域では、緊急雨水整備事業により雨水ポンプの増強や貯留施設整備、管きよの増強などを実施しました。

新川流域は、昭和55年に「新川流域総合治水対策協議会」を設置し、流域が従来から有している保水・遊水機能の維持、増大を図る方策を流域関係機関で進めてきました。その後、平成18年に特定都市河川浸水被害対策法に基づき、新川は特定都市河川及び特定都市河川流域に指定され、平成19年に県、関係市町村が共同で「新川流域水害対策計画」を策定しました。本計画に基づき、流域の治水安全度向上に向けた取組が進められています。

